

農政の動き 2015年11月7日～11月11日

◇温室効果ガス 世界平均濃度が観測史上最高に◇

世界気象機関（WMO）は、主要な温室効果ガスの2014年の世界平均濃度が観測史上最高を記録したと発表した。うち二酸化炭素は、前年比1.9ポイント増の397.7となり、産業革命前（1750年）に比べ43%増えた。（9日）

◇甘利TPP相「合意やり直しはあり得ない」◇

甘利明TPP担当相は閣議後会見で、環太平洋連携協定（TPP）について「合意のやり直しはあり得ない」と強調した。米議会でTPPを所管する上院財政委員会のハッチ委員長（共和党）が合意内容に不満を示し、再交渉の可能性に言及したことなどを受けた発言。「交渉は多次元連立方式であり、一つだけ抜き出してやり直すとなれば、全体が崩壊する」とも述べた。ただ、協定発効後は「それぞれの国が申し入れ、相手が合意すれば、前に進む仕組み」とし、再協議の場は設けられているとした。（10日）

◇森山農相 肥料の偽装で「調査のあり方を検討」◇

J A全農が販売した肥料の偽装表示問題について、森山農相は会見で、農林水産省が過去に行った製造元の太平物産（秋田市）への立ち入り検査時に、問題の肥料が調査リストから外れていたと明らかにした。同社が故意に外した可能性もあり、「今後の調査のあり方を検討する」と強調した。（10日）  
ニはネの右に谷

◇安倍首相 TPP「決議に沿う合意」と評価◇

衆・参両院の予算委員会は、閉会中審査を行った。衆院の審議で、安倍晋三首相は環太平洋連携協定（TPP）大筋合意内容と国会決議との整合性は国会が判断するとしつつ、「決議に沿う合意を達成できた」と強調。農業対策は「万全な対策を取りまとめ実行する」と述べ、農産物の輸出拡大など農業の成長産業化を進める考えを示した。ただ、両院とも審議はわずか1日で、沖縄の米軍基地問題など重要課題を多数抱える中、議論は深まらなかった。（10～11日）

◇世界各地で深刻な干ばつ エルニーニョが影響◇

地域全体に異常気象をもたらすエルニーニョ現象の影響で、アフリカや中米など世界各地が深刻な干ばつに見舞われている。途上国の貧困問題に取り組む国際非政府組織（NGO）オックスファムは、今年から来年にかけて世界で数百万人の貧困層が飢餓に陥る恐れがあると警告、対策を急ぐよう国際社会に促した。（ジュネーブ11日共同）

◇TPP対策で経済財政諮問会議が提言◇

政府は経済財政諮問会議等合同会議を開き、11月25日にもまとめる環太平洋連携協定（TPP）の対策大綱策定に向け、民間議員が提言を示した。財政規律を堅持し、予算の重点配分を要求。農業対策は、構造改革の促進策や持続的成長への「攻めの事業」を重視すべきと明記した。産業競争力会議の議員からは、「選択と集中」の発想で必要な支援を行い、農業者自らが創意工夫で自由に経営できる制度改革など環境整備を同時並行で行うべきとした。（11日）